

身体性のある愛情

C. スー・カーター
研究所長, キンゼイ研究所

概要

人間は知覚できる生物であり、「愛情」と呼ばれる素晴らしい執着の起源を新たな洞察をすることであろう。健全な人間関係は人を病気から守ることや身体の快復に欠かせないというのはよく知られている。特に若年期においては、生物学的な基本の欲求は全て満たされているとしても、人生にポジティブな人間関係がなければ、人間はよく活躍できないらしい。失恋はストレスやトラウマなどの最も強い種類の一つである。けれども、愛情は人を守護する、又は快復させる働きは現在、理解されるようになっていく。愛情は進化論、生理機能の面から考えれば、一番理解しやすいのではなかろうか。中心になるのは哺乳動物のホルモンであるオキシトシンと太古からある分子—バソプレシンである。愛情の生物化学的な材料は人間のみならず、他の社会的動物にもある。異種の社会的行動を研究すれば、愛情のもとになる生理学なメカニズムは抗炎症性、自律神経系、免疫系や微生物叢（マイクロバイオーーム）などを調節するということがわかる。

また、オキシトシン・バソプレシンシステムに寿命の体験や経験も調節する故に愛情や逆境の長期間を亘る身体上の結果があると考えられる。人間関係、育児のもとになる生物学的な働きを研究することによって人間が愛情を経験させ、身体上の体験させる方法が明確する。

主要語句：オキシトシン, 愛情, 一夫一婦（モノガミー）, 育成

身体心理療法に於ける学術・研究の理解を深まる

コートニー・ヤング, ハーバート・グラスマン

概要

本論文は上・中・下に分けられてある。

上には欧州身体心理療法会（EABP）学術・研究部の提案のことを発表する。

中には身体心理療法に相応しい様々な研究方法を発表する。

下には身体心理療法に於ける研究文化に関する新たな進展の可能性を発表する。

心理療法界、大学、世界の夫々の内閣や保健省など、また一般大衆は心理療法の一部門を信頼するのにその部門の有効性の研究が必要ではなかろうか。最近までは身体心理療法が理論的に言えばよく進み、身体心理療法の夫々の治療方法は実際上も有効であるらしいが、その有効性はあまり研究されていない。本論文では身体心理療法の研究の様々な側面を探ろうとする。身体心理療法の研究は修業や業務などにも抱くべき職業文化の発達に欠かせないのであろう。大学の研究部との関係も深めれば良いと思える。身体心理療法の研究に対する否定的な見方、または心理療法の社会がその研究の必要性に口先だけ賛同するらしい現在、修業があり、専門知識を

持つ等の他、身体心理療法士には潜在的な研究者になるための能力も必要となる。そういった状況や身体心理療法の研究の新たな進展も発表するが、本論文は実践家である身体心理療法士の潜在的な研究者として成長するための文化という問題を中心に扱う。

主要語句：身体心理療法の研究，身体心理療法の適切な研究，証拠，実践家兼研究者，研究修業モジュール，実践家兼研究者ネットワーク，事例研究（ケーススタディ）

身体心理療法の実践・研究—身体心理療法士の調査—

ビリャナ・ヨキッチ，フランク・ローリフト，コートニー・ヤング

概要

心理療法の実践と研究はお互いに補完し合うはずであるが、しかし前者と後者の関係がそこまで深くないらしい。本研究は身体心理療法（BP）の実践、又は身体心理療法士が使う研究資源についての情報を集めるように意図し、実行された。36カ国の身体心理療法士404名がオンライン調査に参加。

結果は国などにより身体心理療法士に特に社会人口統計学的に様々な相違点があることを示す。50歳以上世帯は全調査対象者の66.5%に達し、身体心理療法の実家・研究に若者が不十分であると考えられる。身体心理療法士の大部分は個人営業の個人用セラピーの形で治療する一方、僅か数人が主流の健康管理の状況に働いている。結果は身体心理療法士が研究に能力、経験、関心があることに対して研究資源は充分に応用されていないということも明らかにする。

結果の実用性を中心にし、BP養成所が身体心理療法士の研究文化を高まる可能性、他国の（又は外国語で書かれた）経験・研究を共有する必要性や、BPに於ける応用に関する知恵を集める、研究能力を強めるために学界と実践家の社会の関係を深める必要性などを論ずる。

主要語句：身体心理療法，法士営業，心理治療効果証拠，調査，心理治療法士（セラピスト）

ケーススタディ，身体心理療法の場合スタディ（またその欠如）の件

欧州身体心理療法会の2018年の会議の科学シンポジウムへのプレゼンテーション

コートニー・ヤング

概要

本文章は2018年、アテネにて開催された欧州身体心理療法会の会議で行われた科学シンポジウムに発表されたプレゼンテーションの原稿である。使われたスライドは欧州身体心理療法会のホームページよりアクセスできる。

主要語句：身体心理療法， ケーススタディ

身体心理療法の実践・研究—身体心理療法士の調査—

ビリヤナ・ヨキッチ， フランク・ローリフト， コートニー・ヤング

概要

本論文は反省的実践家のコンセプト， 証拠に基づいた実践や様々な定性調査方法を紹介する。定性調査は“何”， “どう”で始まる質問を通し、ある現象の特質を問う。グラウンデッド・セオリー（英：Grounded Theory）という方法がよく使用される。観察・未解決問題の解答にみえる“意味のあるユニット”のパターンがカテゴリー別にコード化する。そのコーディング・プロセスが解説される。それはあるテーマは飽和状態になったら、現象の主な意味を明らかにするという訳である。定性調査に於ける妥当性や信頼性などという課題も発表する。

主要語句：定性調査， グラウンデッド・セオリー（GT）， 一定比較， 飽和状態

身体心理療法の実践に研究の考え方の発達

欧州身体心理療法会の 2018 年の会議の科学シンポジウムへのプレゼンテーション
ゾーイ・シラット

概要

プレゼンテーションは身体心理療法の実践と相応の文献に書かれたよう、研究も考え方も発達できる—研究の関係・相互影響・ケーススタディのことを紹介する。ギリシャの身体心理療法会（PESOPS）の科学部のもとで行われたケーススタディの書き方や版行のことを紹介する“仕掛品の”アクティビティも紹介する。

主要語句：BPT の研究・実践， ケーススタディ—欧州身体心理療法会のガイドライン， 研究の考え方，“仕掛品の”アクティビティ

トルコに於ける身体心理療法のアクティビティ

ジェリヤル・エルでニズ

概要

身体心理療法はトルコで新たな心理治療方法として思われる。トルコではトルコ語で訳されたライフ， ローウエンの少数の本が版行されている。10年前からBPT修業もされている。トルコでは資格のある身体心理療法士がいない。また、トルコはナ

シヨナル心理療法会のないため、修業や資格手続きなどを測定する身体心理療法会を設立する必要がある。

主要語句：身体心理療法，修業，身体心理療法会の設立，トルコ

ウェビナーレビュー

1. 我々は“ホモネウロテクス”の未来を迎えられるのか？心理療法はどう変わるのか？

マリアナ・トドロバ

概要

人工知能（AI），バイオアルゴリズムとしての人間，仮想現実（VR），2人以上の親方，ホログラム対人間，医学的に寿命を延ばすこと... そういった傾向は人間の感情，生活，現実，又は我々の心理療法士の仕事にどんな変化を与えるのか？

主要語句：収益，コミュニティー（社会），共有，テクノロジー（技術），デジタル化，身体心理療法（BP），複合現実（MR）・仮想現実（VR）

2. アイデンティティーと解離の間の主観性の新たな形 マウリツィオ・ストウツジャ

概要

人間は人対自己，人対他人の会話である。その会話を通して，自己同一性・立場を作る・維持するが，会話に中断があれば精神障害が生ずる。人の中にある他者性や他人の中にある他者性の会話のピンチが精神障害の中心である。

解離性障害が増える現在，自己と他人の関係を研究しようと思う。我々は驚きの感情を高まる孤独感，社会的や感情的な独立感を日常に抱くのではなからうか？

主要語句：主観性の形，同一性，解離，仮想・複合現実，安定，関係，会話，中断，内部組合